

## 病院図書館員認定資格制度認定委員会経過報告

### 病院図書館員認定資格制度認定委員会

#### I. はじめに

病院図書館員認定資格制度認定委員会（以下認定委員会と略す）は、近畿病院図書室協議会と病院図書室研究会との共同事業として1999年9月に、「病院図書館員認定資格制度検討班」の後を受けて発足し、2001年3月をもって終了した。その間の経過を報告する。

#### II. 活動経過

認定委員会の活動経過は表のとおりである（表1）。

第1回認定委員会の前に2000年の1月から2月にかけて、両会の幹事会、役員会が開催され、検討班の答申が検討、承認された。認定委員会

ではその結果を受けて、具体的な企画を立案するために活動することになった。

#### III. 検討内容

先の「病院図書館員認定資格制度検討班」では、教育カリキュラムの基本的な考え方を検討し、案を作成した。また、実際に認定制度の実施を想定した予算案も、簡単ではあるが試算を行っていた。

両会での検討の結果、「教育」と「認定」については若干の考え方の違いがあったため、認定委員会では両者を折衷したものを模索することとなり、財政上の課題、また、受講者の負担減を考慮した企画を検討することになった。

表1. 活動経過

1999/05	「病院図書館員認定資格制度検討班」報告書を提出
1999/09	「病院図書館員認定資格制度認定委員会」発足 認定委員委嘱（任期は2001年3月末）
1999/10	ヒアリング会開催 （10/15東京・聖路加国際病院, 10/26京都・国立京都病院）
1999/11	共同事業運営会議（京都・国立京都病院）
2000/04	2000年度第1回認定委員会（東京・聖路加国際病院）
2000/05	認定委員会病図研メンバーによる会議(1)
2000/06	認定委員会病図協メンバーによる会議(1)
2000/08	認定委員会病図研メンバーによる会議(2) 認定委員会病図協メンバーによる会議(2)
2000/09	2000年度第2回認定委員会（京都・国立京都病院）
2000/10	企画書作成のため、両会会員宛アンケート調査実施
2000/12	認定委員会病図研メンバーによる会議(3)
2001/01	2000年度第3回認定委員会（京都・国立京都病院） 両会宛てに企画書案提出
2001/03	企画書作成
2001/04	両会へ画書提出 3月末認定委員任期終了

そこで、認定にあたっては「試験」を主体として行い、一定の講習会・実習・課題提出を併用する方法をとることとし、カリキュラムの再検討、予算案の作成など、具体的な作業を行うことになった。

#### Ⅳ. 検討・作業結果

- 1) 基本コンセプト：病院図書館員として業務を行う上で最低必要な知識、技術を身につけているかどうかを試験し、認定する。
- 2) 対象：当面両会会員（病図協の場合は会員施設の図書館員）
- 3) 受験資格：司書資格取得者。移行措置として、3年間の期限つきで病院図書館勤務経験5年以上の者とする。
- 4) 期間：1年
- 5) 広報：両機関誌、folio、両会ホームページ
- 6) 実施内容：表参照（表2）
- 7) 費用：5万円

この他にも資格の更新、試験・講習会の実施時期ならびに開催地、評価の方法などについて検討を重ねた。また、受験希望動向など、一種のマーケティング・リサーチを行った（2000/10 アンケート調査：病図協会員へは会誌21巻1号ならびに第95回研修会で報告）。

表2. 実施内容

- |                      |
|----------------------|
| (1) 病院図書館学           |
| 1) 病院と図書館            |
| a. 病院管理学入門           |
| b. 病院図書館概論           |
| 2) 資料と情報             |
| 3) レファレンス            |
| 4) 二次資料，データベースの紹介と開設 |
| 5) ドキュメント・デリバリー      |
| (2) 医学用語・医学概論        |
| 1) 医学用語              |
| 2) 医学概論              |
| (3) コンピューターリテラシー     |
| (4) 原点購読             |

#### Ⅴ. 企画書概要

三度にわたる認定委員会で細部の調整を行い、下記の項目を満たす「病院図書館員認定制度企画書」を作成した。

- 1) 企画標題
- 2) 企画目的
- 3) 企画概要
- 4) 実施要綱
- 5) 実施スケジュール
- 6) 予算計画
- 7) 広報活動
- 8) 実施組織・スタッフ

実施内容については、昨今の病院図書室をとりまく状況を鑑みて、EBM入門を加えることにした。

企画書は2001年3月末に作成終了し、また、同時に認定委員会も任期を終了した。

完成した企画書は関連報告書を添付して一つにまとめ、4月に両会会長宛に提出した。

#### Ⅵ. 提出後の状況

今回の企画書提出で、認定委員会の任務は終了したのであるが、その後の状況について若干補足する。

企画書提出に先立って、2001年1月、両会幹事会・役員会へ企画書案を提出した。しかし、その頃には共同事業そのものの継続性が問題となり、先行きが不透明となっていた。認定委員会でもその対応について検討したが、残りの任期中、与えられた任務を全うすることにした。その後、残念ながら周知のように、共同事業自体が中断されることとなり、認定事業も企画書提出の段階で中断している。

#### Ⅶ. 終わりに

認定制度企画書は約1年半をかけて検討し、まとめたものであるが、今回は実現するに至らなかった。ここに反省を込めて、問題点を挙げてみたい。

まず第一に、当初より指摘されている財政上での問題がある。

病図協、病図研とも、十分な初期投資、事業継続のための財政面でのゆとりはほとんどない。独立採算を図るにしても、受験（受講）者の数によって左右されるのでは不安定さは免れない。そのために、科研費の申請など、なんらかの助成金を取得する方法や、他の機関との連携などの案も検討されたが、今回はあくまでも両会の共同事業として考えることにし、この問題は保留された。

第二に、事業の有効性である。両会だけの認定では、「認定」を受けることが社会的な認知につながりにくい。「認定」が職場での身分保障に対して効果を持つものでなければ、受験者がどこまで広がっていくか心もとない。認定の「権威」を高める手段として第三者機関の存在の必要性についても検討過程では出たが、将来的な問題として残された。

第三に、病院図書館員の職場環境が、年々厳しさを増していることである。

社会的認知を図ること、安定した職場でその職責を全うすることが、今回の企画の主要な目的の一つである。また、アンケート調査やヒアリングでも、こうした意味での認定制度への期待が読み取れる。しかし、これらの期待にも関

わらず、不安定な身分の職員が多数存在することは、実施に際して、継続性、実効性を考える場合決して無視できない要素である。

以上、簡単に問題点を列挙してみた。これらは、将来「認定制度」が再検討されることがあった場合にも、課題となると考える。特に、身分保障については今回だけの取り組みでなく、今後も病院図書館界全体で取り組む必要があるだろう。

一方、企画書作成の過程で検討してきた教育カリキュラム、業務達成目標は、会員への教育、研修の場で役立てていくことができるのではないかと考える。不安定な身分からの脱却には、専門知識の習得など、専門性を高めていくことも手段の一つとなる。一定の基準を示したことは、自己学習の面でも意義があった。

この委員会で検討した内容は、今回は実現に至らなかったが、企画書提出という形で終止符を打つのではなく、今後の課題と捉え、何らかの形で役立つことを望む。

この認定委員会は、両会の会員から組織されたが、地理的に離れているため何かと不便ではあった。しかし、それを乗り越えて共に作業に携わり、両会の交流ができた事は非常に有意義であったということを、特に記しておく。

(文責：林 伴子／社会保険神戸中央病院)

# 医学書の厚生社

〒530-0003 大阪市北区堂島3丁目2番7号

■電話 06-6451-3711 ■ファクス 06-6451-3771

ご注文は ■電子メール：[koseisha@yo.rim.or.jp](mailto:koseisha@yo.rim.or.jp)

■ホームページ：<http://www.kose-sha.co.jp/>

(ホームページで過去3年の雑誌の特集を検索出来ます)